

Q1：記録は何を残すの？

A1：杭の種類や大きさ、敷地内の平面位置、深度などの基本情報と、既存杭の取扱い（再利用、存置、撤去）に応じた情報などです。

Q2：誰が記録を残すの？

A2：土地所有者が記録を保管します。ただし、情報の取り扱いが不明な場合や解体時に既存杭の扱いを決定する際には専門家（設計者や施工者）に相談してください。

Q3：設計者・施工者の役割は？

A3：設計者、施工者は、土地所有者の意向を踏まえてガイドラインを参考に、法令の規定や主旨に適合するように検討し、将来的な不利益がないように、既存杭の情報を引き継ぐ手助けをします。

Q4：法律的な扱いは？

A4：環境省通知によれば、存置するため（廃棄物扱いにされない）の条件として、環境省通知で示される諸条件を満たすとともに存置杭の記録を残し、土地売却時には売却先に記録を開示し引き渡すことなどが求められます。（詳細についてはALLFガイドライン:P9~P16を参照ください）

Q5：土地所有者が変わる場合は？

A5：土地所有者が新土地所有者に情報を開示し、引き渡す必要があります。また、両者間で既存杭の取扱いについて合意した記録も同時に残してください。

Q6：どうやって残すの？

A6：情報の保管方法は土地所有者に委ねられています。印刷物や電子媒体で残します。

Q7：記録するデータはいつ、どうやって集める？

A7：新設の建物については設計段階から情報の記録・収集を始めてください。供用中の建物の場合、設計図書その他、特に施工記録が残っていれば保管するようにしてください。その他、建替え時・増改築時・被災時などにも、建築物基礎に関わる必要なデータを収集・記録の上、保管してください。

この建物、基礎杭ありますか？

調査するのに時間もコストも増える、敷地の既存杭を記録した図面（情報）を残しましょう。



Question?

既存杭の記録がある？

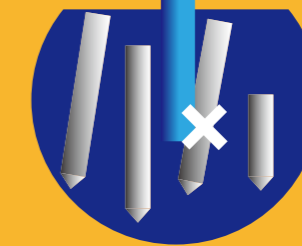


Yes



既存の杭を再利用。
・建築資材の有効活用（環境負荷の軽減）
・費用、工期削減

No



記録が無かったら新たな杭が打ち込めないなど、将来のトラブルに繋がります。
・無駄なコストの発生
・工期延長

更に詳細な情報は：既存杭の利活用・処理における情報表示ALLFガイドラインを御覧ください
ALLFガイドライン・ダウンロードアドレス <http://all-foundations.org>



ダウンロードはこちらから>

建築の未来を創る、ALLF（一般社団法人 建築基礎・地盤技術高度化推進協議会）では、建築物の基礎に使われている、既存杭の利活用・処理における情報表示ガイドラインを作成しました。

ALLFガイドラインの目的

既存建物を解体しての建替えでは、既存建物の杭（既存杭）の記録（情報）が重要となっています。既存杭の情報がない場合の新設建物の設計は、設計上のリスクや施工上のトラブル発生率が高くなる。対象地の既存杭の情報を参考とすることで、合理的な設計・施工と安全面やコスト面でのスムーズな施工が行えます。ALLFガイドラインは、既存建物と新築建物に関係する土地所有者・設計者の皆様が、既存杭に関する共通の認識に基づく、記録（情報）を引き継ぐことが重要になっていることを踏まえた提案です。

●ALLFガイドライン・ダウンロードアドレス <http://all-foundations.org>



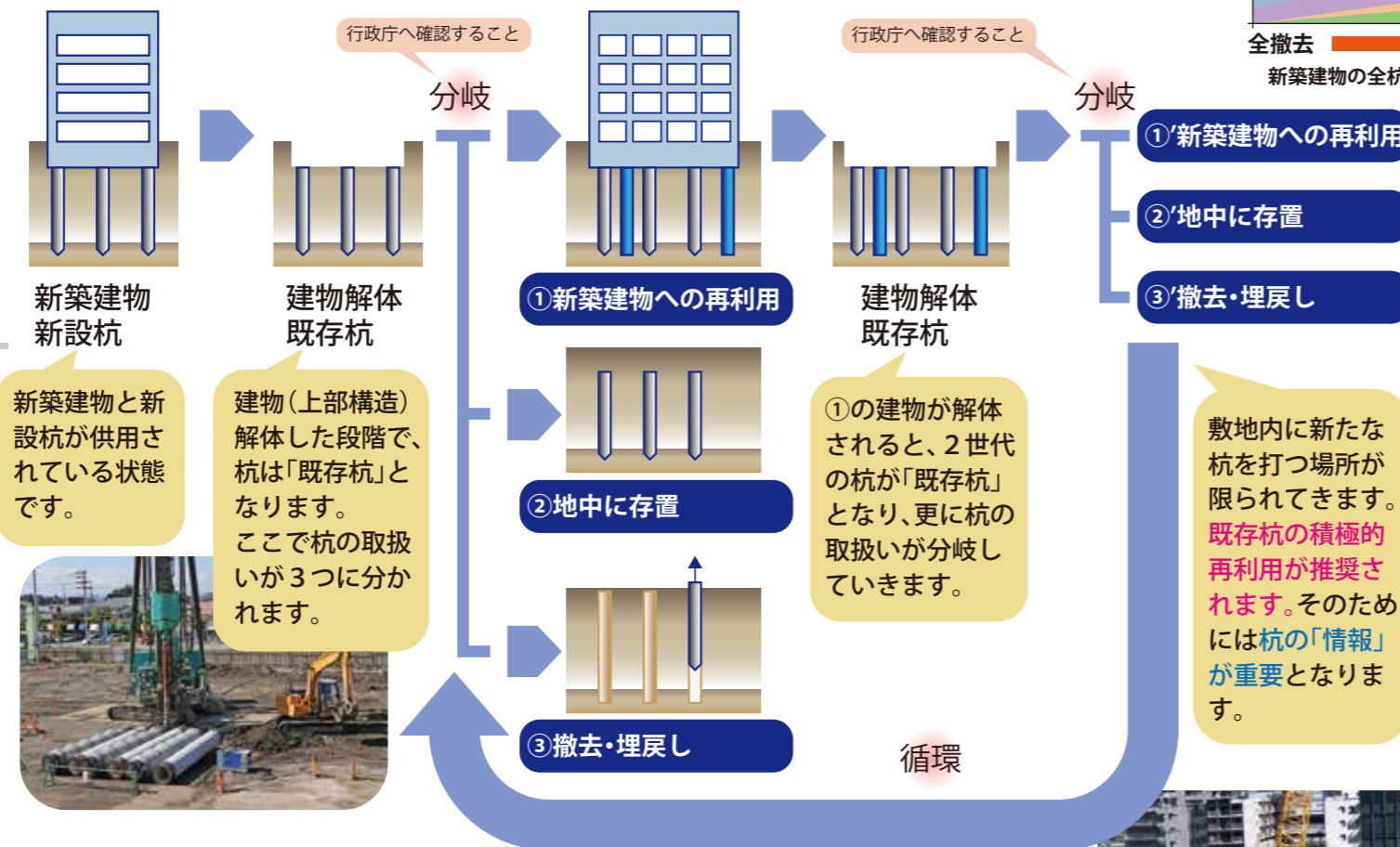
ダウンロードはこちらから>

既存杭の記録を残すと 大きなメリットがあります。

なぜ情報を残すの？

- ① 既存杭を再利用できるとメリットが大きい。
- ② 情報を後から探すには大変な手間とコストがかかる。
- ③ 地中の杭情報を残さないと、後工事のトラブルの原因になることも...
- ④ 杭を抜いたあとは、地盤が変化する(元には戻らない)

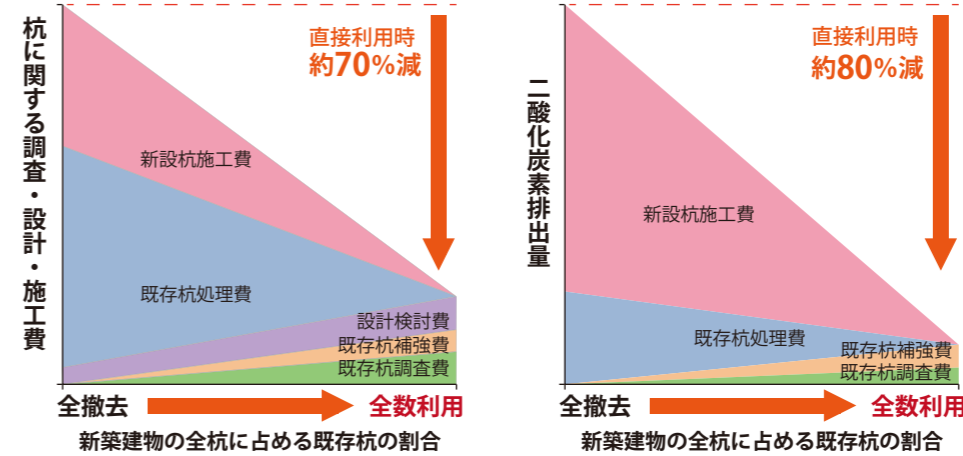
杭のライフサイクル ～既存杭の取扱いの分岐と循環～



どんなメリットがあるの？

杭の再利用: 建設資材の有効利用と環境負荷低減(CO2排出量低減)→コストとCO2の低減

既存杭の直接利用や存置時(新旧建物が同規模の場合)におけるメリット
～杭のライフサイクルCO2排出量の削減効果イメージ図※1～

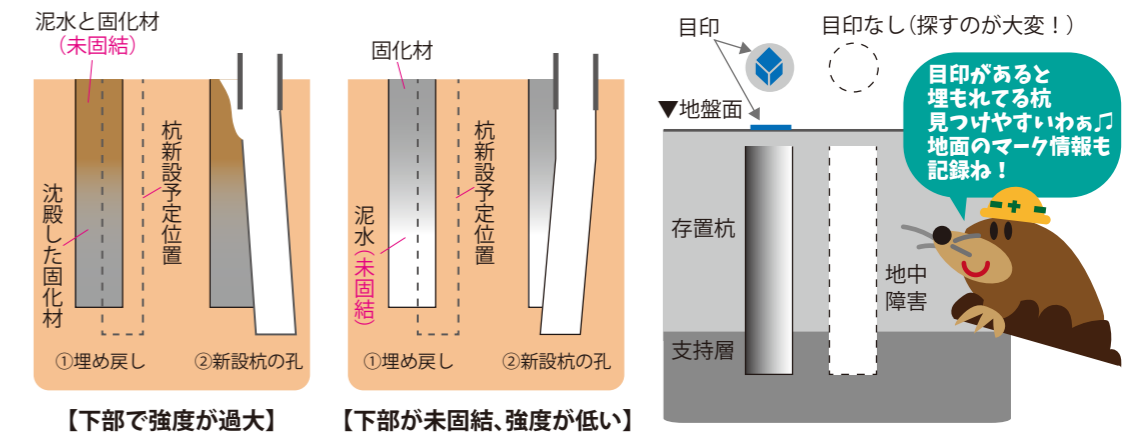


※1
(一社)日本建設業連合会 地盤基礎専門部会
杭の再利用WG: 既存杭利用の手引
～現在と将来の利用に向けて～
p4(図1-5)、p5(図1-6)に加筆 2018.11

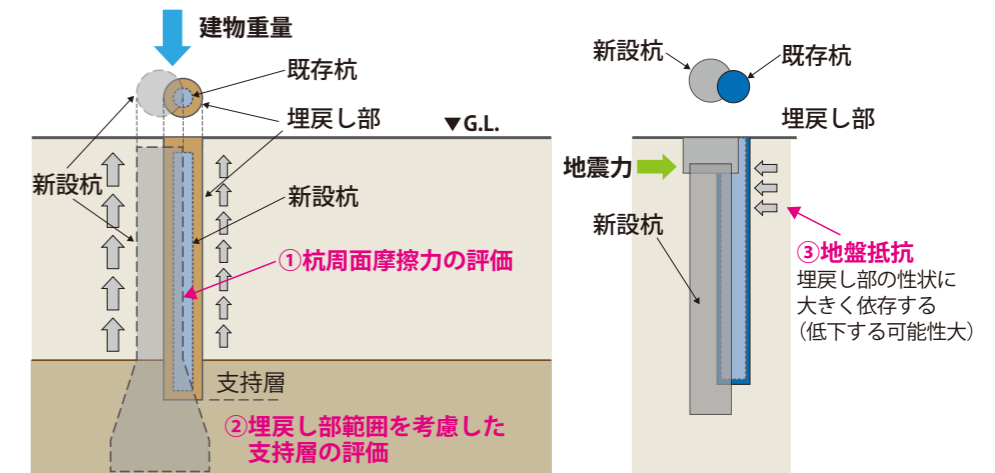


記録を残さないと、どんなリスクがあるの？

違法廃棄物や施工障害(地中障害)となりトラブルの原因に。
埋戻し部が、新設杭設計に影響することがあり、情報伝達が重要。



▲▼撤去による埋戻し部が新設杭の施工に与える影響



杭の再利用、存置、撤去、埋戻しのメリット、デメリット

想定されるリスクとその回避のための対応(記録がない場合)

利活用・処理形態	メリット	デメリット	想定されるリスク	リスク回避に向けた対応
再利用	資源の有効利用・杭コストの削減 環境負荷低減	調査費用の増大	設計の手戻りの可能性	正確な情報を早期に取得
地中に存置	適切な存置で敷地の保全(地盤変化の防止)	敷地内に新たな杭を打設できる場所が限られてくる	廃棄物処理法違反(処理が不適切な場合)	存置杭の情報を取得し、確実に保管
撤去・埋戻し	地中障害がない	地盤は変化し、元には戻せない	地盤の緩みによる周辺環境への影響	可能な限り杭を撤去しない

杭の利活用するなら
まずは記録から